



<贈ることば>

努力、人柄、「ありがとう」で
自分を高め、人も幸せに!

多久市長 横尾俊彦

21世紀を担うみなさんの未来は無数の可能性が広がっています。輝くダイヤモンドの原石のようで、それを磨き輝かせるのは自身で、周りに必ず応援団がいることを忘れないで頑張ってくださいと思います。

必要な人材を世の中は放っておきません。そうなるには一般的に、才能と人柄と言われますが、私は努力と人柄だと思います。何かを目指して努力すれば、その努力は新たにみなさんに力を与え、いつかはチャンスをつかむ力を与えてくれます。そして、自分に偽りの無い気持ち、人に優しくする気持ちを大切に、人柄を高めてほしいと思います。加えて、「ありがとう」という言葉を覚えてください。これには、自分が受けたことに関する感謝と、いやなことや辛いことが起きても、一度「ありがとう」と、心の中で受け止める2つの意味があります。自分の弱い所を高めたり、強くしたり、良い所を伸ばしたり、経験したことのないことをやるためのチャンスだと思い、もう一歩頑張れば、新たなチャンスや飛躍が生まれると思います。

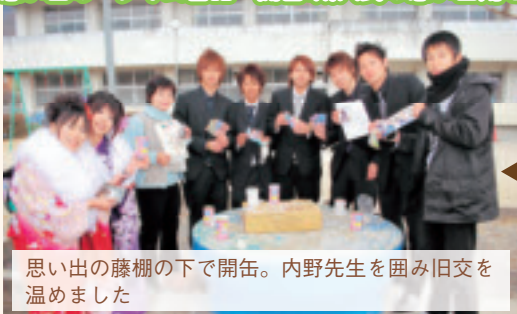
成人すると一人の存在として責任、権利、義務が発生します。その権利の中には、自分のしたいことを自由にできることもありますが、人を幸せにできる権利も持っているのです。笑顔にする努力、権利も発揮してください。歴史に刻まれる多久聖廟創建300年の年度に20歳を迎えられたみなさんの未来に、輝かしい活躍があることを心から願っています。



■友との再会に写真を撮ったり、メールアドレスを交換したり…。笑顔で互いの門出を喜び合いました



思い出の“タイム缶詰”開缶!成人式の思い出刻む



思い出の藤棚の下で開缶。内野先生を囲み旧交を温めました

成人式の後、西部小学校の卒業生15人は母校に集まり、『タイム缶詰』の開缶をしました。8年前、成人を迎えた未来の自分に宛てたメッセージや写真、宝物などを詰めたもので、当時の思い出話に花が咲きました。

「タイム缶詰のことは覚えていたが、何を入れ、書いたのは忘れていた。今日、開けて、当時の自分たちに会え、懐かしい思い出がよみがえった。でも、恥ずかしくて人には見せられない」と声を揃える中、陸上自衛隊に勤務する尾形浩史さんは「野球関係の仕事…と、でっかい夢を書いて、やっていることは違うけど、頑張ってきたことは今に活かされている」と話してくれました。

当時、担任だった内野由美教諭（現東部小）は、「社会人や学生として立派に成長した姿に感激。卒業しても仲良くまとまりがあり、一緒にこの時間を共有できて教師冥利に尽きます」と涙を浮かべ、再会を喜ばれていました。

無事にこの成人式を迎えられたことは大変喜ばしいことであり、それは自分一人の力では到底なしえなかったことです。お世話になった地域の方々、支えてくださった先生方、誰よりも私たちと一番長い時間を過ごした家族、そしてここにいる友人たちのお陰だと思います。人との出会いは“縁”を大切にしなければなりません。その一瞬一瞬を大切にすることによって次の出会い、新しい出会いが生まれます。今、この時間も何かの縁によって生まれたかけがえのないものです。

成人式を機に、それぞれが決意したことが未来の自分へ、そして生まれ育った多久の地の繁栄の糧になるように、この縁を大切に新成人としての道を歩んでいきたいと思ひます。

“縁”を大切に新成人としての道を歩みたい



牟田久美子さん
(中央中学校区代表)

今日の成人式を私たちの人生においての大きな区切りとして、重く受け止め、一人ひとりが責任を感じ、自分の将来について深く考え、今日からまた気を引き締めて、新たな一歩を踏み出そうとしています。

これから先、私たちは「大人」として、色々なことを経験していくと思います。その中で、時にはつまずいたり、転んだり、様々な困難が待っていると思います。しかし、どんな困難にも決してあきらめることなく、自分でしっかりと考え、立ち向かっていきたいと思ひます。今まで、私たちを温かく見守ってくれた家族や地域の皆様方、先生方への感謝の気持ちを忘れず、いつかは故郷に恩返しができるような人間になりたいと思ひます。

故郷に恩返しできるような人間になりたい



浦田 大輝さん
(西溪中学校区代表)